

# 発 言 通 告 書 要 旨 （1枚目／全5枚）

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1			<p>「もっと住民が幸せな加賀市」について</p> <p>市長が掲げる「もっと住民が幸せな加賀市」とは、どのような姿か。教育、子育て、福祉、医療、産業などの各分野について、現時点での市長の具体的なゴールイメージを問う。</p> <p>また、今任期4年間でどの程度達成する予定であるか。</p>	
2	(1)		<p>「子供に幸福、県ナンバーワンの教育都市の実現」について</p> <p>レッジョ・エミリア・アプローチの取組の総括と今後の方向性について</p> <p>令和7年度の取組の総括と、研究・研修の効果を示せ。</p> <p>また、レッジョ・エミリア・アプローチからの学びを取り入れた加賀市保育ビジョンの計画年度は令和8年度までであるが、令和8年度はどのように取り組んでいくのか。</p> <p>さらに、計画年度が終了した令和9年度以降の保育はどのように進めていくのか。橋渡しとなる令和8年度の取組と絡めて方向性を示せ。</p>	
	(2)		<p>法人立保育園との格差について</p> <p>レッジョ・エミリア・アプローチは、多額の事業費が必要な取組だが、そのために法人立保育園への補助金などを減額した事実はあるか。</p> <p>過去の答弁では、法人立保育園との保育格差については触れられていない。しかし、法人立保育園の現場からは、事業費などの面で格差を指摘する声が聞こえる。法人立保育園・こども園と、公立保育園は、どちらも加賀市の子供たちを育てる大切な場所であるため、保育格差が生まれないような配慮が必要であると思われるが、所見を問う。</p>	
	(3)		<p>「子供に幸福な教育の姿」について</p> <p>親世代の子供の頃と現代の子供を取り巻く環境では大きく変化している。加賀市教育委員会は、近年子供たちが生き生きと学ぶ姿を実現する取組を進めてきたと評価している。そのような状況を踏まえ、市長にとっての「子供に幸福な教育の姿」はどのようなものか。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全5枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(4)		<p>高等教育機関の設立について</p> <p>宝塚医療大学観光学部のキャンパスを加賀市内に設置することは、学生にとっても実習のしやすさ等のメリットがあるが、高等教育機関の設立には多くの手続きと準備、資金が必要である上に、大学授業料無償化や少子化の影響で、今後大学や専門学校が背負うリスクは決して小さくないと予想される。このような状況を踏まえても、高等教育機関をさらに充実させる必要があるのか。高度な人材を生まれてからずっと加賀市に留めておくという方法よりも、むしろ「帰ってきたい加賀市」をつくっていくことが重要ではないか。</p>	
3			<p>「未来へつなぐ強くしなやかな財政」について</p> <p>10月30日の全員協議会において、令和8年度当初予算の進め方について説明があった。その際、予算編成方針の基本的考え方の2つ目に、「市民生活に不可欠なサービスや、5年先に確実な成果が見える未来への投資に重点的に配分する『選択と集中』を図る」と提示されたが、5年という短いスパンだけで投資判断することが、果たして本市の将来にとって妥当なのかが懸念される。特に課題と思われる人口動態、産業構造、教育の改善は、いずれも短期間では結果が出にくい分野である。「短期成果偏重による自治体のリスク」は、無いと考えているのか。</p> <p>また、10年、20年先を見据えた投資の必要性をどの程度重視しているのか。短期の「見えやすい成果」と長期の「将来への先行投資」をどのようなバランスで行うのか。「選択と集中」によって、予算配分の偏りが起こらないのかという懸念が市民から聞こえてくると予想される。短期・長期の「選択と集中」の計画について、具体的に示せ。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全5枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4			<p>「加賀市の魅力の磨き上げ」の推進について</p> <p>市長提案理由説明の中で「もうひとつの金沢、加賀温泉郷」と表現があった。大変有名な金沢の名前を借りることは、一時の知名度確保には強みとなる。しかし、金沢市は文化都市、加賀市は温泉・自然・食・工芸と、強みが違うにもかかわらず、「もうひとつの金沢」では、加賀市の特色が生かされず、二軍感を生み出す可能性がある。また、金沢のイメージを持って加賀市に訪れた人が、想像との乖離により残念な思いを持つことも避けるべきではないか。</p> <p>市民目線で考えたときに、加賀市を誇りに思う住民を増やすべきだと考えるが、これでは加賀市への自信が感じられない。「賑わいの金沢、くつろぎの加賀」のような対照的でどちらも同じように素晴らしさを持っていることが伝わるアピールをしてはどうか。金沢から近いことを謳うなら、「金沢からすぐ行ける、本物の寛ぎ、癒しを味わえる、3つの温泉と魅力的な体験が待っている場所」ということを伝えていくことが重要ではないか。</p>	
5	(1)	①	<p>「医療福祉・交通・防災の質を高める」について</p> <p>加賀市医療センターについて</p> <p>スマートフォンによるマイナ保険証の読み取り導入について</p> <p>先日の教育民生委員会で説明のあったスマートフォンによるマイナ保険証の読み取り設備について、その導入費用を問う。</p> <p>また、利用促進にあたっては、利用者にとって分かりやすい説明や周知が必要であると考え、所見を問う。</p>	
		②	<p>業務委託について</p> <p>加賀市医療センターでは業務の一部を外部委託しており、委託費用が高額になっていると聞く。特に調理の面では、健康な体に戻すために必須であるはずの食事において、病院食が手間のかからない食材や食品になっており、健康に配慮しきれていない現状を市民から聞いている。このような側面を持ちながらも外部委託するメリットは何か。</p> <p>また、外部委託を停止した場合、どの程度のサービスの低下や経費の増額が見込まれるのか。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 （4枚目／全5枚）

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	③		<p>紹介受診重点医療機関としての市民への周知・理解について</p> <p>加賀市医療センターは、紹介受診重点医療機関として、日常的な救急、診療、手術、入院などの医療を行いつつ、病気やけがの回復時までのサポートや、症状に応じて周辺医療機関へつなぐなどの機能を持っている。この機能を十分に発揮するためには、かかりつけ医との連携は必要不可欠である。</p> <p>そこで、令和6年度の外来診療において、かかりつけ医からの紹介受診ではなく、直接加賀市医療センターを受診し、初診時選定療養費を支払った方の割合はどのくらいかを示せ。</p> <p>また、その中には、かかりつけ医を持つことを推奨されていることを知らずに来院した方もいると思われる。そのような方が多いと、加賀市医療センターでないと診ることができない患者への対応が手薄になることが懸念される。</p> <p>紹介受診重点医療機関とかかりつけ医の制度については、これまでも周知してきていると思うが、これまでの周知方法に加え、より広く確実に周知することが必要ではないか。</p>	
	(2)		<p>発達に特性のある子供への支援体制の充実について</p> <p>市内在住の保護者の方から、子供の発達を診てもらったり療育を受けたりするために小松市にある小松こども医療福祉センターまで通っていて負担が大きいという声を聞く。加賀市内で同様の支援を受けることはできないのか。</p> <p>また、加賀市で発達相談・支援を行う「こども育成相談センター」は老朽化で移転の必要がある。発達に特性のある子供の相談、診断、療育などが、加賀市内の一拠点でスムーズにできるようなシステムを構築する見込みはあるのかも含め、加賀市内の支援体制の現状と課題及び今後の計画を問う。</p>	
	(3)		<p>交通の質の向上について</p> <p>加賀市の高校生の多くが、保護者の自家用車で駅や学校に行っている。市民の声を聞くと、多くの保護者が高校生の通学に関する交通体系の整備に関心を持っている。通学のための交通網を拡充する計画について問う。</p>	
	(4)		<p>防災の質の向上について</p> <p>防災対策として、避難所となる体育館の空調設備や備蓄の拡充に対する量的・質的向上を目指すとのことであるが、女性や子供の安心・安全を確保するための取組について問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (5枚目/全5枚)

氏 名 高橋 菜見子

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
6			<p>エアモビリティ産業創出事業について  旧緑丘小学校の施設について、現在の利用状況を問う。  また、飛行テストに周辺地域上空を使用するにあたり、落下物や事故のリスクについてどのように想定しているか。あわせて、万が一の事故の場合、責任の所在はどこになるのかについても示せ。</p>	